

令和7年度

「運営に関する計画」
(自己評価・最終評価)

大阪市立城東幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和7年度、現在の園児数は69名、学級数は3クラスである。昨年より、学級数が1クラス減少した。一人一人に寄り添ったきめ細やかな関わりに努め、教職員で連携を図りながら保育活動の充実を目指したい。
- 様々な非常災害時を想定し、安全教育、避難訓練など、年間計画をたて取り組んでいる。万が一に備えるため、日頃から安全対策についての情報収集や教職員間の情報共有を行い、さらに保護者や学校・地域との連携推進とより様々な状況を想定した内容を工夫する。
- 幼児が安全に園生活を送れるよう、園内での過ごし方を把握したうえで、屋内・屋外それぞれの環境の見直しを行っている。安全点検を日常化し、安全・安心な幼稚園づくりのため改善点を話し合う機会をもったり、教職員や幼児、保護者と共通理解を図ったりして引き続き安全意識の向上に努めたい。
- 一人一人を大切にされた教育の推進では、幼児を多面的によみとり、幼児理解を深めていくことが大切であると考え。そのために定期的に園内委員会や園内研修会で話し合いを行い、教員の資質向上につなげていく。
- 広い園庭や花壇、自然物、池などの豊かな自然環境を生かし、見たり、触れたりする体験を通して、身近な自然への興味関心が深まるような環境構成の工夫を行う。また、季節を感じたり生き物へ親しんだりできるよう保育活動に取り入れたい。
- 就学前教育カリキュラムを活用し、幼児が主体的に遊び、知・特・体がバランスよく総合的に育まれるよう教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育内容の充実に努めたい。そして、幼児の遊びの様子や育ちについて、保護者へ知らせる機会をもち、教員の資質向上を図るとともに幼児教育の重要性について啓発していきたい。
- 幼児期から基本的な生活習慣を身に付けることの大切さを知らせている。そのために、幼児の実態把握、指導法の工夫、家庭との連携を図り、継続した保健指導と啓発方法の工夫に努めたい。
- 近隣の学校・保育所や地域の方との関わりの中で親しみの気持ちをもつことができ、関係各所と連携をとりながら、取り組み内容を見直し、交流活動の充実につなげたい。また、未就園児活動を含む子育て支援の充実も図り、地域に開かれた幼稚園づくりをめざしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」を90%以上にする。

○きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

○一人一人を大切にした教育を行う。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

○身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

○基本的生活習慣の意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○教員の資質向上を図る。令和7年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

○地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 一人一人を大切にした教育を行う。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思うか（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり、触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 基本的な生活習慣の意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 教員の資質向上を図る。令和7年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。
- 地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○中期目標を達成することができた。

- ・避難訓練年間計画に基づき、様々な非常災害時を想定した避難訓練を定期的を実施することができた。その中で、教職員間で非常時災害時に求められる連携手段、何より園児の安全確保のための避難誘導の方法について共通理解を図る機会が多くもてた。そして、訓練の積み重ねにより、子どもたちの防災への関心が高まり、保護者への啓発にもつながった。
- ・きまりやルールを守って安全に過ごすための環境や指導法については、ケガマップを作成したり、集会で教職員が実演をしたりして、子どもたちにも分かりやすいよう視覚化しながら繰り返し安全指導を行った。また、日常的な安全点検と毎月実施する安全点検によって、室内外の環境の見直しを実施した。
- ・園内委員会を定期的実施しながら、個に応じた働きかけについて教職員間で共通理解を図った。ニーズに応じた研修に積極的に参加し、教職員一人一人の人権意識を高めるとともに、インクルーシブ教育への理解を深め、一人一人を大切にした教育を行うことができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○中期目標を達成することができた。

- ・就学前カリキュラムを活用し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるように、週案会議で子どもの実態を共有し、保育内容を話し合い、環境や働きかけについて討議したことで、保育の充実を図ることができた。保護者には、掲示物や手紙・パワーポイントなどで教育内容を啓発した。
- ・園内の自然環境をより豊かにするために、栽培年間計画を立て、計画的に栽培・収穫、遊びに活用することができた。身近な自然環境に触れることで、生長を喜んだり、草花の美しさに心を動かしたりして興味・関心を育むことができた。
- ・学校保健計画に沿って、保健指導を行い、手洗い、うがい、歯みがき指導は習慣化するよう、養護教諭を中心に毎日丁寧に知らせてきたことで幼児が主体的に行うようになった。また、家庭でも協力してもらえよう働きかけを行ったことで、基本的な生活習慣の重要性について保護者も意識が高まった。

【学びを支える教育環境の充実】

○中期目標を達成することができた。

- ・教職員がキャリアステージに応じた研修へ参加し、研修内容を報告し、学びを共有した。園内研究会を計画的に実施し、意見交換をしたことで、さらなる保育活動の充実と資質向上につながった。
- ・保護者の力を園の教育に生かしたことで、円滑に行事運営をすることができた。
- ・城東小学校との交流を継続したことで、幼児は学校への憧れや期待感が芽生え、保護者の安心感にもつながった。未就園児活動や地域交流では、本園の教育内容を知ってもらう機会となり、公立幼稚園として地域に開かれた幼稚園の役割を果たすことができた。

大阪市立城東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>○避難訓練を積み重ね、子どもの防災意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>○きまりやルールを守って、子どもが安全な幼稚園生活を送れるようにする。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園はきまりやルールを守って、安全に過ごせるよう環境や指導法を工夫している」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>○一人一人を大切にした教育を行う。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定した訓練を通して、自らの安全を守るための意識や態度を育む。 ・保護者、地域、小学校と連携し、災害や非常時における対策の見直しや訓練の計画、実施を行う。 <p style="text-align: right;">（ 防災・減災教育の推進 ）</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な非常災害時を想定し、PDCASサイクルを用いた避難訓練を年10回行う。 ・絵本や紙芝居、視覚教材などを用いた指導を学期に1回行う。 ・安全だよりを年3回以上発行し、保護者、地域、小学校に啓発する。 ・年1回、保護者・地域と合同避難訓練を行う。 	
<p>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我が起きやすい活動内容や場所などの実態把握をする。 ・環境の見直しを行い、安全な遊び方についてのきまりやルールを教職員で共通理解し、実態に応じた指導法を工夫する。 ・取組内容を保護者に啓発する。 	B

	(安全教育の推進)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全点検、環境整備を月1回教職員で行い、年3回園児やPTAと行う。 ・年3回、ケガマップをつくり、実態把握をする。 ・月1回以上、安全に関する指導をする。 ・掲示や配布物などで、年2回以上保護者に啓発する。 	
<p>取組内容③【2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな友達のことを知り親しみを持てるような活動の工夫をする。 ・保護者や関係機関と連携し、一人一人に応じた指導法を工夫する。 <p>(インクルーシブ教育の推進 人権を尊重する教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育に関する園内研修会を年3回行う。 ・園内委員会を学期に1回行い、全教職員で幼児理解に努める。 ・個別の指導計画、視覚的な教材を作成し、学期に1回見直す。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、避難訓練や安全指導などを定期的に行っている」の項目について肯定的回答率は「そう思う」99%「どちらかといえばそう思う」1%合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。 ・年間計画に基づき、様々な非常災害時を想定した避難訓練を計10回実施した。PDCASサイクルを用いた内容は以下の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ○火災の訓練では、非常ベルや放送内容をよく聞き、ハンカチで口・鼻を抑えて、出火元から離れた場所に避難することを知り、自分で考えて行動することができた。 ○地震の訓練では、机や椅子の下に入り、自分の頭を守ることが大事であること、防災頭巾を被って避難することを知り、機敏に行動した。 ○不審者対応訓練では、不審者が園内に侵入してきた時の合図や避難方法を知り、子どもたちと速やかに避難することができた。その後、教職員間で連携の取り方を再確認したり、防災グッズを見直したりした。また、大阪府警本部城東警察署と連携し、警察署の方が不審者役をしたり、誘拐劇を見たりして、安全に過ごすための約束について話してもらい、子どもたちは自分の身を守る方法を再確認することができた。 ○これらの避難訓練の積み重ねにより、子どもたちの防災への意識が高まり、災害が起きた時に自分で考えて行動することにつながった。 ・絵本や紙芝居、視覚教材などを活用した指導を学期に1回以上行った。各学年の発達段階に応じて、避難するときの約束や防災頭巾の被り方などを理解し、落ち着いて訓練に参加することにつながった。 ・安全日より（避難訓練）を年3回発行した。保護者に幼稚園保育補助システム「コドモン」で配信、地域・小学校に紙面を配布し、園の取組を啓発した。子ども・保護者の防災意識が向上した。 ・保護者との合同訓練を年2回実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ○保護者引き渡し訓練では、城東小学校の避難経路を教職員で確認し、保護者配布の手紙に、図や矢印、写真などを用いて具体的な経路を記した。訓練後のアンケートで「避難経路や写真だけでは分かりづらい」という意見があり、城東小学校の許可を得て、校内 	

の経路を動画で撮影したものを12月の終業式で保護者に見せた。

- 保育室降園時に地震を想定した合同避難訓練では、大きな災害が起きた時、自分はどこにいるか・誰と一緒にいるかなどによって避難方法が変わること、自分の命を守るための行動、互いに助け合う気持ちで避難するなど、保護者・園児共に災害対策について考えるきっかけになった。
- ・地域との合同避難訓練は、日程が合わず、実施することができなかったが、園長が地域の避難所開設訓練に参加し、地域の方と防災について話す機会をもつことができた。

取組内容②

- ・令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、きまりやルールを守って安全に過ごせるよう、環境や指導法を工夫している」の項目について肯定的回答率は「そう思う」93%「どちらかといえばそう思う」7%合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。
- ・月1回教職員で安全点検を行った。不要なものの撤去や危険な箇所を改善し、環境整備を実施した。5月に5歳児、12月に4歳児、2月に3歳児が園庭やテラスの安全点検を行った。園児が気付いたことを写真や絵で表示したものをを用い、分かりやすい工夫をして他クラスに伝えた。1月はPTA役員・実行委員による安全点検を行った。保護者の視点での気づきがあり、すぐに改善をした。
- ・けがマップを6月、10月、1月と年3回実施し、実態を把握した。毎回、けがマップを園児に見せて、けがの多い場所や怪我の種類、原因となる行動を説明し、子どもたちに知らせた。その後、けがマップを保育室の前に貼り出し、子どもたちに視覚的に知らせたことで子どもたちが安全に過ごす意識を高めることができた。
- ・月1回以上、子どものけがの実態に合わせて担任や養護教諭による安全指導を行った。
 - 安全集会で、遊具の片付け方や安全な遊び方など、子どものけがの実態に応じて実演を交えて指導をした。
 - けがマップの実態把握から、打撲の予防対策として、各クラスで机や椅子の運び方、友達との距離の取り方、室内では歩くことなどの指導した。転倒の防止対策として、正しい靴の履き方や走る際の注意点を知らせた。また、危険予測ができるようにイラスト（園庭での遊びの様子）を用いて指導した。
 - 日常生活での危険予防の視点から、園外保育で水筒を持ち歩く機会が多くなる時期に水筒の持ち方や、「歯ブラシはくわえたまま歩かない・遊ばない」などの指導を行った。
- ・けがマップの掲示と安全に関する指導で使用した教材を目につくところに掲示したり、安全だより（怪我）を3回発行したりして、けがの実態と安全に対する取り組みについて保護者啓発を行った。

取組内容③

- ・令和7年度保護者アンケートで幼稚園は幼児理解を深め、一人一人を大切にした教育を行っている」の項目について「そう思う」88%「どちらかといえばそう思う」12%合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。
- ・インクルーシブ教育に関する園内研修を行った。6月発達障がい基礎講座、課題別編では、インクルーシブ教育の専門知識を学んだ。
 - 6月生野支援学校の地域支援、9月、12月教育委員会の巡回指導では一人一人に応じた支援について学び、計4回指導を受けた。
- ・園内委員会を学期に1回行い、子どもの実態と支援方法について情報共有し、共通理解

することで全教職員が幼児理解を深めることができた。

- ・学期に1回、個別の指導計画を見直した。それによって、一人一人の育ちと具体的な支援の方法を考えることができた。

視覚的な教材を作成し、学期に1回見直しをした、3学年共通した視覚支援が必要ではないかと考え、各学年共通して同じ視覚教材を使ったほうが良い物（毎日のスケジュールや持ち物）を全教職員で考え作成し、活用した結果、子ども達が見て理解しやすいものとなった。各学年共通したことで、進級した際も同じ視覚教材を使用することができ、安心して過ごせる視覚支援物となると考えられる。クラスや個の実態に応じて、全教職員が使えるように、校務支援パソコンで共有し、活用できるようにした。

次年度への改善点

取組内容①

- ・地域に幼稚園の実態を啓発するとともに、地域の実態を知り、災害時の共助につながる連携方法と内容を考える。

取組内容②

- ・けが予防についての安全指導を安全担当者と担任が連携し、継続的に行うとともに、保護者啓発を図る。

取組内容③

- ・実態に合わせて、視覚支援教材の見直しをしていく。

大阪市立城東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①就学前教育カリキュラムを活用し、保育の充実を図る。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答割合を90%以上にする。</p> <p>②身近な自然を充実させ、子どもの興味や関心を育む。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>③基本的な生活習慣の意識を高める。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導法を工夫している」という項目について「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と回答する割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3、幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用し、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫し、保育の充実に努める。(就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週案会議を月2回行い、子どもの実態把握を深め、教育的意図をもった働きかけについて討議する。 ・就学前教育カリキュラムを活用し、指導計画を毎月見直し、教育課程を改訂する。 ・プレゼンテーション、紙面配布、掲示物などを活用し、年3回以上保護者に啓発する。 	B
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>身近な自然への興味や関心を高め、主体的に遊べる環境を工夫する。(「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培の年間計画を立てる。 ・身近な自然を取り入れて遊べる環境を、月1回見直す。 ・掲示物を年3回以上作成し、保育に活用する。 	B

<p>取組内容③【5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣が身につくよう、子どもの実態に応じた指導法を工夫する。 (健康に関する現状課題への対応) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校保健計画を作成する。 ・ 生活調べを年3回、保健指導に応じた健康カレンダーを年3回実施する。 ・ 生活習慣に関する保護者アンケートを年2回行い、結果を報告する。 ・ 子どもの実態に応じた保健指導を月1回行い、内容を保護者に啓発する。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度保護者アンケートで、「幼稚園は、子どもが主体的に活動し、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれるよう、教育的意図をもった働きかけを工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」90%「どちらかといえばそう思う」10%、合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。 ・ 月2回週案会議を行った。週案会議の中で、環境構成や教育的意図をもった働きかけについて各クラスの実態を交えながら討議したことで、保育の充実を図ることにつながった。より見通しをもって保育内容を工夫できるように、週案の形式を見直した。 ・ 就学前教育カリキュラムと大阪市立幼稚園研究会参考教育課程「世界を拓くなにわっ子」を活用し、毎月指導計画の見直しを行った。3月に教育課程を改訂する。 ・ 保護者啓発として、知・徳・体がバランスよく総合的に育まれている姿を中心に、幼児の育ちをプレゼンテーション3回、「えんちょうしつだより」4回、実施した。年5回の保育室降園では、写真を使って保護者に幼児の姿を知らせた。保育室降園後は、年齢による発達の違いについて知ることができるように、3学年まとめてホワイトボードで掲示したことで各クラスの様子を知ってもらうことができた。このように、子どもの育ちを視覚物を使って具体的に知らせたことで、保護者が子どもの姿や教育内容の見方を知り、保育の充実や幼児教育の重要性、就学前カリキュラムの理解につながった。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが見たり触れたりし、身近な自然に興味や関心をもてるような環境を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」96%「どちらかといえばそう思う」4%、合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。 ・ 自然物を取り入れて遊ぶことができるように栽培計画とともに遊びの計画も立て、年間計画に沿って進めることができた。子どもの目に付きやすい場所に栽培物を植えたり、子どもと一緒に世話がしやすいように配置を変えたりしたことで、子どもがより栽培物に興味や関心をもつようになった。 ・ 身近な自然を取り入れて遊べる環境を以下のように見直した。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 季節に合わせて草花や実を使った飾りづくり、ままごと遊び、色水遊びなどができるように、用具や遊具を整理し、子どもたちが手に取りやすいようにした。 ○ 栽培物の苗植え、種蒔き、収穫ができるように、プランター、畑などの準備をしたり、絵本や図鑑を用意したりした。サツマイモの収穫後は、サツマイモのツルで縄跳びや 	

電車ごっこをした。5歳児はリースをつくり、園庭の草花をドライフラワーにして飾り付けをした。イネは、イネわらを使って5歳児がしめ縄をつくった。

○水が氷になることを知り、氷に触れたり、自分たちで氷をつくったりできるように、用具を出したり、氷に関する図鑑や絵本を読んだりした。

これらの環境から、子どもたちは身近な自然環境に興味・関心をもち、好きな遊びに取り入れて楽しむことができた。

- ・ 掲示物を年5回作成した。夏野菜・冬野菜を保護者と一緒に栽培し、世話の仕方や収穫のポイントがわかるように絵で知らせた。園庭の甘柿と渋柿、子どもたちが育てたお米と餅つきのもち米の違いがわかるように、クイズ形式にしたり、実物を見比べたりできるようにした。早春の草花に興味をもてるように写真を掲示し、園庭のどこに咲いているかを探した。掲示物を使うことで、身近な自然への興味や関心をもつきっかけとなったり、保護者への啓発につながったりした。

取組内容③

- ・ 令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は、子どもが基本的な生活習慣を意識することができるよう、指導方法を工夫している」という項目について肯定的回答率は、「そう思う」92%「どちらかといえばそう思う」7%合わせて99%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。
- ・ 年度当初に学校保健計画を立てた。2学期以降の計画については、必要に応じて保健計画の内容を見直し、担任と相談・連携しながら実態に応じた保健指導を実施した。適切な時期に適切な内容の指導を行ったことで、感染症の流行はなく、1年間学級休業をすることなく過ごすことができた。
- ・ 生活調べを長期休暇に2回、保健指導の内容に応じた健康カレンダー4回、計6回実施した。指導内容に応じた生活調べを実施することで「丁寧に手洗い・うがいができた」「赤・黄・緑の食べ物をバランスよく食べようと思った」などの保護者からのコメントがあり、基本的な生活習慣についての意識が高まった。
- ・ 生活習慣に関する保護者アンケートを年間2回実施し、年度当初と年度末の結果をグラフにして比較した。月齢や時期により変化が見られ、グラフとともに生活習慣の改善のポイントを掲載したものを配信した。生活習慣アンケートの結果を保護者に配信することで、保護者の基本的な生活習慣を改善する意識につながった。
- ・ 学校保健計画を基に保健指導を月に1回、計11回実施した。指導後も担任と子どもの様子を伝え合ったり、巡回しながら個別での指導をしたりして、担任と連携しながら継続した指導を行った。
 - 手洗いや歯みがき時に音楽を流すことで、楽しみながら丁寧に手洗いや歯みがきをする幼児が増え、幼稚園での生活習慣が身に付いた。
 - 家庭での早寝・早起きを習慣付けるためのくじられっしゃの活動を月に1回行った。この活動が早寝・早起きの意識を高めるきっかけとなった。
 - 保健指導後、保健室前に指導内容の掲示をすることで、継続した基本的な生活習慣への意識付けにつながった。
 - 保護者への啓発として、保健だよりでの発信とホワイトボードでの掲示を行ったことで、保護者の健康に関する知識が深まった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・保育のさらなる充実を図ることができるように、週案の様式や週案会議の持ち方などをその都度改善する。

取組内容②

- ・子どもの実態や園内環境を生かし、季節に合わせた保育計画を立てる。

取組内容③

- ・年齢や発達に応じた子どもへの分かりやすい伝え方や、子どもが主体的に考えられるような指導方法について、担任の助言を生かして改善する。

大阪市立城東幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【3つの最重要目標】</p> <p>園の年度目標</p> <p>①教員の資質向上を図る。令和7年度教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」という項目について「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。</p> <p>②地域に開かれた幼稚園づくりを目指す。令和7年度保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と回答する割合を90%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容①【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアステージに応じた研修に積極的に参加する。 ・保育指導案を作成し、園内研究会を実施する。討議会をもち保育を改善し、教員の資質向上に努める。（教員の資質向上・人材の確保） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員一人につき年に3回以上、研修に参加して伝達する。 ・園内研究会を年5回行う。討議会をもち、保育内容の改善を図る。 	B
<p>取組内容②【9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室降園、保育参観、行事などを通して、子どもの姿を保護者と共有し、幼稚園教育への理解を図る。 ・近隣の小学校、様々な人材など、地域の資源や教育力を園の教育に取り入れる。（教育コミュニティづくりの推進） <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観、保育室降園、行事などの機会に、幼稚園の教育内容を学期に1回、保護者に発信する。 ・年3回、保護者ボランティアを募り、保護者の力を教育に生かす。 ・年5回以上、近隣の小学校、様々な人材など、地域の資源や教育力を活用した活動を工夫する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度後期教職員アンケートで「研修や園内研究会などを通して、自分の資質向上を図ることができた」の項目についての肯定的回答率は「そう思う」100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。 ・キャリアステージや研修内容に合わせ、公私幼保合同研修、大阪市総合教育センター実施の各研修、インクルーシブ教育研修、校園長研修、主任研修、養護教育研修、事業担当 	

主事研修など、1人3回以上参加した。研修後には、研修資料を回覧したり、学んだことを伝達したりして、情報や研修内容を共有した。

- ・園内研究会を計5回行った。年間計画として担任3名、養護教諭2名が自分で実施する月を決めたことで一人一人が自覚をもち、計画的に実施できた。討論会では、クラスの実態や環境構成、教師の働きかけについて振り返るとともに、見通しをもって保育を進めることの大切さに気付き、学びを深めた。また、加配教諭が、各クラスの遊びの中で、子どもの心の動きやつぶやきなどから思いを読みとり、写真つきの記録を作成し、教職員で回覧する取組を14回行った。互いの保育を可視化することで、他クラスの活動を知り、クラスや子どもの実態を多面的に見ることにつながった。
- ・大阪市総合教育センター教育指導員による指導要請1回、園内研修支援1回行った。各クラスの保育を見てもらった。討議会での意見交換や指導助言を通して、保育指導案の書き方を見直したり、自身の保育を振り返り、今後の見通しをもったりすることができ、教員の資質向上へとつながった。

取組内容②

- ・令和7年度後期保護者アンケートで「幼稚園は家庭や地域との連携を大切にしている」の項目についての肯定的な回答率は「そう思う」88%「どちらかといえばそう思う」12%、合わせて100%であった。年度目標、中期目標ともに達成することができた。
- ・保育参観4回、月1回誕生会を行い、子どもたちの様子を見てもらったり、一緒に遊んだりした。園生活を楽しんでいる姿、友達や教師との関わりなどを見てもらう機会を捉えて、教育内容を発信することができた。
- ・年5回保育室降園を行い、就学前カリキュラムを活用した子どもたちの育ちについて掲示物をつくり、保護者へ周知した。終業式で計3回、運営の計画に沿って園の取組や成果についてまとめた内容をパワーポイントを用いて知らせることができた。
- ・毎月園だよりにより各クラスの遊びの様子やクラスで楽しんでいることを知らせた。また、園長室だよりを4回発行し、教職員がそれぞれの視点から教育内容を発信した。
- ・園外保育や行事などで年8回PTAボランティアを募った。保護者へも教育活動に協力してもらい、教職員と連携を図ることで、安全安心に行事運営ができた。
- ・城東小学校に散歩に行き、運動場で体操やかけっこ、大型遊具、凧あげをした。園外保育に出かけるときの歩き方や約束について知る機会になり、園庭よりも広い場所でのびのびと体を動かすことを楽しんだ。運動会、作品展、生活発表会に校長先生が見に来てくださった。また、作品展では、城東小より5名が観覧しに来てくださり、幼稚園教育に関心をもってもらうことができた。また、幼稚園から教員2名が小学校の運動会を見に行かせていただき、卒園児の成長を見ることができ、学校教育について触れる機会になった。5歳児は1年生との交流として学校見学、給食見学をし、就学への憧れや期待につながった。その様子を保護者に知らせることで、学校とのつながりを感じてもらうことができた。
- ・園で収穫した玉ねぎ、七夕飾り、鏡餅を城東福祉会館に届けた。また、地域のひなの会の方と一緒に梅の収穫をしたり、地域の読み聞かせの方々が読み聞かせに来てくださったりした。地域の方に優しく関わってもらい、親しみの気持ちをもった。
- ・未就園児活動として、「ふれあいランド」16回実施、「りす・うさぎ」を10回実施した。在園児と一緒に遊ぶ中で互いに親しみをもって関わる姿が見られた。園児が未就園児を遊びに誘う、遊具や順番を譲るなど思いやりの気持ちも育った。また、園児がのびのびと遊んでいる様子を見てもらうことで、自園の教育内容に触れ、興味をもってもら

うことにつながった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・教職員がより学びを深められるよう、園内研修の場として日程を計画したり、討議会のもち方を工夫したりする。

取組内容②

- ・地域との交流は、これまでのつながりを大事にしながら、相互に相談・連携しながらできることを考えていく。
- ・小学校との交流は、子ども同士の交流活動は継続しつつ、自分たちが小学校教育について学ぶ機会をつくる。(授業の様子を見に行く、学習内容を知るなど)